



中央保育園児と老人クラブがふれあい枝豆づくり

# 新種!?! 祖父父母・孫枝豆——登場

祖父母・孫ふれあい枝豆——なかなかいい名前ですね、実はこれ、

岩室地区の老人クラブと中央保育園の子供たちが共同で育てた「ふ

れあい枝豆」。世代を超えた交流で育てた枝豆の味はどんなかな?

## ひとつ何かをやるう

ことしの五月、中央保育園から歩いてすぐそばにある畑が、その名も「ふれあい枝豆農園」としてオープンしました。

「子供たちとのふれあいを通して、世代間の楽しい交流を図ろう」と、橋本や岩室、栄など八つの単位老人クラブの会員（約八十人）と中央保育園児（百六十三人）が共同で、この枝豆づくりをはじめたのです。その名も「ふれあい枝豆（甚句枝豆）づくり」です。

そもそも、この枝豆づくりが始まったきっかけには、いくつかの動機がありました。

第一の動機にあげられるのは、岩室

地区の老人クラブが、間瀬地区や和納

地区の老人クラブに刺激されて!?!「何か子供たちと一緒に世代を超えた事業（ボランティア活動）をやりたい」という、純粋で積極的な活動目標があったからです。第二の動機としては、県の農業改良普及所、村農政課、岩室村農協などが共同で、岩室村の特産品ともいえる「甚句枝豆」の産地拡大を画策している、その事業計画の中に世代間交流事業の推進があったからです。第三の動機は、村がいま積極的にすすめている「生涯学習事業」です。ここにも世代間のふれあい事業を強力に推進する実践活動が提起されていたことです。

これらの動機がタイミングよく合体して、この中央保育園児と岩室地区の単位老人クラブとの「ふれあい枝豆づ

くり」が実現しました。

## 共同で「かかし」作り

「子供たちと、こんな楽しい農作業ができるなんて、うれしいねエ」「もう子供たちを見ていただけでとっても楽しいよ」と、老人クラブのおじいちゃんやおばあちゃんたちは、実にうれしそうに話します。

農園に枝豆の種をまいた五月十九日、ふれあい交流の第一弾として、この大切な畑を守ろうと、「ユニークかかし」を共同で作って立てました。それから約三か月。ふれあい枝豆はクラブ員の手入れと子供たちの愛情?に支えられて、グングン大きくなって先月十二日の収穫祭を迎えるまでになりました。

さて、話はちよつと前後しますが、

収穫を迎えるまでには、それはそれは熱心な対応がありました。

実際に共同でふれあい農園を始める段どりが整ってからは、そのふれあいの場となる畑の確保がはまりました。ちよつと中央保育園からすぐ近く（岩

室温泉病院成人病検診センター横）の田んぼを転作田として提供してもらったことが、計画はグリーンと前進。ふれあいの場が決まってからは、「おじいちゃんたちが、子供たちと枝豆を作るのだから」ということで、橋本地

区の青年たちが全面協力。畑を耕してくれたり、肥料を投入してくれるなど、表面に出ない地味なところでの支援という、うれしい動きもありました。

畑の下地ができるというよいよ豆まき。五月十九日のことでした。みんなで作った「かかし」を立て、鳥や害虫などからこのふれあい農園の大切な豆を守る守護神としました。

ところで、ふつう枝豆は肥料をやらなくても、ある程度実る豆として知られていますが、今回はふれあい交流プラサ甚句枝豆の産地拡大といった一面も合わせもっていたため、豆づくりでは、それこそベテラン?先生?といわれる老人クラブのみなさんも、初心にかえり、一から枝豆づくりの技術向上のため研修会なんかの勉強会を何回か開き、真剣な対応をしました。そのうえ、子供たちのため——と畑の草取りに何度も足を運んだ人も多いとのこと。

「正直いって、自分のところの畑よりも、このふれあい枝豆の畑の方が気に入りましたね。やっぱり子供たちと一緒に作っているんだから、という張りのせいでしょうかね」、「なぜか豆はどんなかな、いつも気になります。少しでも雑草が生えていると、なりふりかまわず取ったりして……自分でもおかしくなっちゃうわ」と話してくれたおばあちゃんたち。そんなさきり気ない枝豆に対する思いやりの成果?か、この畑には草類は不似合。もちろん子供たちと一緒に草取りも楽しみました。（次ページへ）



5月19日に、この「ふれあい農園」に枝豆の種をまいて約3か月後の8月12日。みごとに育った「ふれあい枝豆」の収穫祭が行われました。



年長児が代表しておじいちゃんたちと枝豆とりを



五十嵐政蔵さん (橋本・75歳) 会長

子供たちと枝豆づくりを通してふれあいをもてたことが最高にう

## 大成功のふれあい交流

れしかったねエ。

最初は、老人クラブで何か奉仕的な活動ができないものか、と話が持ち上がり、「それなら中央保育園も近くにあるのだから、子供たちと交流しながら甚句枝豆づくりをやるう」ということになりました。

枝豆ができるまでは、会員のみなさんからいろいろ苦勞をしてもうりましたが、収穫の日に子供たちのうれしそうなお顔をみたら、疲れもいっぺんに吹き飛んだ感じでした。

それに今回参加した人たちが全員が園児たちとの交流を喜び、本当に楽しいふれあいだったと大満足しています。だから大成功の交流会だったと思います。

これからは生涯教育の一つとして、何か進んでやってみたいですね。

## 本当にいい体験でした



宮島ミナさん (岩室・69歳) 会長

本当にいい体験をさせていただきました。わたしは、正直なところ畑で野菜なんかを作ったことがなかったもので、すすんで参加させてもらいました。